歴史を訪ねて…

笠岡市の文化財

大飛島の海の玄関口、定期船乗り場がある地区には、かつて対岸の小飛島の方に向かって細長く突出した砂浜がありました。このような地形のことを砂嘴（さし）といいますが、地元では「砂洲（さす）」と呼びならわしてきました。この「砂洲」は、昭和四〇年代には長さが三〇〇メートルあったともいわれており、潮の満ち引きによって、海面下に没して短くなったり、長大な姿を現したりしていました。島の沿岸を流れる潮流の絶妙なバランスによって形成された、まさに自然の神秘といえるでしょう。

このような地形は、古くから聖地と考えられることがありました。日本三景の一つ、「天橋立（あまのはしだて）」にも大きな砂嘴がありますが、その近くには丹後（たんご）国の一宮（いちのみや）、籠（この）神社がまつられています。同じように、大飛島の「砂洲」の付け根にあたる山すそには、古代の祭祀（さいし）遺跡である「大飛島洲の南遺跡」が眠っています。

かつての「砂洲」は、中央が高く盛り上がり、長大な姿を見せていました。しかし、その後、隣接する港を整備したことによる潮流の変化や、海砂採取などの影響からか、しだいに砂が拡散しています。現在では、大潮の最干潮時に、わずかにその姿を見ることができます。

写真…平成13年の大潮干潮時

大飛島の砂洲（さす）
市指定天然記念物

竹喬美術館みどころ 1

特別展 上村松園・松篁・淳之展
―松伯美術館所蔵品による―

上村松園<鼓（つづみ）の音>
昭和15（1940）年
松伯美術館 蔵

松伯（しょうはく）美術館は奈良市にある美術館で、上村松園（しょうえん）・松篁（しょうこう）・淳之（あつし）という、親子三代の日本画家の作品を収蔵しています。

上村松園は明治8年（1875）生まれの、当時はめずらしい女流の画家で、江戸後期から明治初期の京都の女性風俗や、能、歴史に取材して、ただ見た目に美しいだけではない、内面的な深みを持つ凛とした女性を描きました。女性として初めて文化勲章を受章したことでも知られています。

松園は、京都で茶葉屋を営む家に生まれ、幼い頃から好きだった絵の道を、母の全面的な応援を受けてひたすらに歩みました。人物画の参考が少なかったこともあり、博物館や寺院、また、祇園祭で飾りだされる屏風などを模写して歩いたといいます。着物の色や柄、かんざし、髪の生え際のやわらかさやまるい肩など、描かれている細かな美しさを数え上げればきりはありませんが、画面全体にただよう格調高さこそ、松園が表わしたかったものでしょう。

展覧会と行事のご案内

特別展

上村松園・松篁・淳之展
―松伯美術館所蔵品による―
開催中～6月1日㈰
休館日 5月12･19･26日
開館時間 9:30～17:00
（入館は16:30まで）

お茶会
5月18日㈰10:00～16:00
席料300円
（入館料が別途必要）
笠岡茶道連盟

※現在、松伯美術館では、竹喬美術館所蔵の竹喬作品が紹介されています。

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html

今月の表紙

市の重要無形民俗文化財に指定され、300年以上も前から続く「流し雛」が4月6日、北木島の大浦海岸で行われました。

地元の子どもや家族連れ、ツアー客など多くの人が参加し、閏年の今年は13体の紙雛を乗せた「うつろ舟」を海に流し、無病息災を願いました。

係から

パソコン作業の合間には目薬とお茶は欠かせません。キーボードを叩いていて、吹き抜ける風に誘われて窓を見やれば、新緑を纏った木々が、ディスプレイを見続けた目には一層鮮やかに映ります。八十八夜を過ぎると新茶の季節。この時期はコーヒー、紅茶よりも新茶を優先です。

これからは、取材で市内各地の行事に出かける機会が増えます。皆さんよろしくお願いします。（良）

発行日／平成20年5月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／㈱国輝堂 ☎67-5111

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association
※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。